

稚内・サハリン国境観光モニターツアー調査報告（2015年6月15-19日実施）

公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）

調査研究部上席研究員・北太平洋地域研究室長 高田喜博

1. これまでの経緯

北海道大学・境界研究ユニット（UBRJ）、境界研究地域ネットワーク JAPAN（JIBSN）、特定非営利活動法人国境地域研究センター（JCBS）、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）などが取り組んできた国境・境界地域研究の一環として、ボーダーツーリズム（国境観光）が開始された。いくつかのセミナーやシンポジウムに並行して、具体的には対馬・釜山でモニターツアーが、2013年12月と2015年3月に実施された（後者について詳しくは、[花松泰倫『対馬・釜山国境観光モニター調査報告』](#)参照）。そして今回、それに続くものとして、2015年6月15-19日に稚内・サハリンモニターツアーが実施された。今後、対馬・釜山の国境観光の継続、旧日ソ国境線（北緯50度線）を訪ねる新しい稚内・サハリン国境観光、八重山・台湾での初めての国境観光、さらに国境を越えないでオホーツクの国境地帯に行く国境観光などが準備中である。

本報告は、6月の稚内・サハリンモニターツアーの際に実施されたアンケート調査の結果について、対馬・釜山の結果をも踏まえて報告するものである。

2. 日程・行程等について

実施日時：2015年6月15日（月）から19日（金）の4泊5日

行程：稚内空港集合・稚内市内観光・フェリーを利用してサハリンのコルサコフへ移動・ユジノサハリンスク・コルサコフ・ドリンスクなどを訪問・フェリーで帰国。

参加者数：32名（男性20名、女性12名）で他に報道・関係者など8名。

ツアー価格：124,700円（一人部屋利用の場合は22,000円追加）

実施：ANAセールス株式会社（受託販売：北都観光株式会社）

企画：特定非営利法人国境地域研究センター

協力：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境ユニット

後援：稚内商工会議所・コルサコフ定期航路利用促進協議会・（一社）稚内観光協会・ハートランドフェリー株式会社

3. 今回のツアーの狙い

先行する対馬・釜山のモニターツアーにおいて、国内旅行と海外旅行を組み合わせる国境を挟んで隣接する地域を訪ねる国境観光に対する大きな可能性と課題があることが分かった。今回のモニターツアーは、稚内・サハリンでも同様の国境観光が可能であるか検証するものである。

今回のモニターツアーを実施するに当たり、対馬・釜山の事例を踏まえて、試験的なモ

デルコースを設定するとともにアンケート用紙を用意した。このモデルコースを設定するに当たり関係者で協議し、国境をはさんだ二つの地域の異同をどのように理解し、楽しんでもらうかについて工夫した。その結果、具体的なテーマとして①国境の過去・現在・未来を見る、②二つの地域の文化・歴史・食を比べる、③二つの地域の自然にふれる（エコ・ツーリズム）などが提案され、それぞれのテーマについて専門家の解説を用意した。

また、アンケート調査の分析に当たり、できる限り対馬と釜山の事例と比較できるよう工夫した。

モニターツアーのチラシ（表面）



稚内から一番近いヨーロッパ 羽田・稚内発

団体企画 査証免除で行く 72時間以内滞在ロシア査証免除制度利用 **添乗員同行**

2015 サハリン国境観光モニターツアー5日間

◆ご旅行日程◆
6/15(月)~6/19(金)

■ご旅行代金(稚内発着:お一人様) (2名1室利用の場合)
127,400円 募集人数 30名
1人部屋追加料金(4泊分) 22,000円 最少催行人員:15名

■利用予定ホテル(稚内グランドホテル)
 ■利用予定ホテル(サハリン・サッポロ・ホテル)
 ■利用船会社:ハートランドフェリー(往復2等客室)
 ■お申込み締切日:ご出発日の21日前 ■満席になり次第受付を終了いたします。



サハリン・サッポロ



アインス奈谷
全長 76.66m
幅: 14.50m
総トン数: 2628ト
旅客定員: 223名

わっかない地域商品券 2,000円分付き

例えば ①お食事代のお支払に充当。
 ②お土産の購入代に充当。
※指定店等のご案内は後日となります。

日	月日・曜日	都 市 名	発着時間	交通機関	行 程	食 事
	6/15 (月)	稚内空港 ご集合 稚内市内視察観光	13時00分	専用車	稚内空港1階到着ロビーにご集合。 専用車で宗谷岬、宗谷丘陵、稚内電力発電施設、稚内開港百年記念塔(北方記念館)など視察観光。 ホテル帰着	
①	6/16 (火)	稚内グランドホテル 稚内港 コルサコフ港 (18大泊) ユジノサハリンスク (18豊原)	07:30発 09:00発 15:30着 *(14:30) 18:00頃 *(17:00) 19:00頃	ハートランドフェリー 専用車	ホテルより専用車で稚内港へ。 アインス奈谷にて稚内港を出国。 コルサコフ港到着 入国手続き終了後、 専用車でユジノサハリンスクへ。 ユジノサハリンスク到着。 ホテルのレストランで夕食。 ユジノサハリンスク(泊)	朝食 非船 船内 夕食
②	6/17 (水)	ユジノサハリンスク コルサコフ プリゴロドノエ CITY MALL (シティモール) サハリン州郷土博物館 ゲルメスなど	09:00発 16:30頃	専用車	ホテルで朝食 専用車でユジノサハリンスクからプリゴロドノエでLNG施設見学 (車窓から)、18日本軍上陸記念碑、コルサコフ市役所前広場、 コルサコフ展望台、CITY MALL(自由見学と自由昼食)、 サハリン州郷土博物館、ゲルメス(買い物)など見学。 ホテル帰着 OP:夕食は自由食。(オプションでご案内いたします。) ユジノサハリンスク(泊)	朝食
③	6/18 (木)	ユジノサハリンスク 終日自由行動。 ユジノサハリンスク市内自由散策をお楽しみください。	18:00		ホテルで朝食 OP: オプション・ツアー(別途料金) 【ドリンスク・柴浜白樺観光(昼食付)】9:00~14:30 旧酒倉(ドリンスク)、ドリンスク駅前、ドリンスク・レーニン広場 ・旧柴浜駅前(郵便局地下庫)、城泊海岸で城泊釣り、白鳥屋など 夕食は、「ふる里レストラン」 ユジノサハリンスク(泊)	朝食 夕食
④	6/19 (金)	ユジノサハリンスク コルサコフ港 稚内港	07:30発 10:00発 14:30着	専用車 ハートランドフェリー	ホテルで朝食 専用車でユジノサハリンスクからコルサコフ港へ。 出国手続き終了後、「アインス奈谷」で帰国の途へ。 稚内港到着、入国手続き後、解散となります。 お疲れ様でした。	朝食 非船 船内

■時間は現地時間です。(日本との時差は1時間) * () 内に時間は、日本時間です。
 【企画】特定非営利活動法人 国境地域研究センター
 【協力】北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット
 【旅行企画・実施】観光庁長官登録旅行業第1656号
ANAセールス株式会社
 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-14-1

【後援】■稚内商工会議所 ■稚内・コルサコフ定期航路利用促進協議会
 ■(一社) 稚内観光協会 ■ ハートランドフェリー株式会社

【受託販売】北海道知事登録旅行業第2-128号
北都観光株式会社
 〒097-0022 稚内市中央4丁目5番29号
 総合旅行業務取扱管理者 米田正博 受付時間/月~金曜日 8:00~18:00
 土・日・祝日は17:00まで
☎ 0162-23-3820 FAX 0162-22-4252

ボンド保証会員 旅行業公正取引協議会会員

モニターツアーのチラシ（裏面）

サハリン国境観光モニターツアー5日間 募集要項・旅行条件書



- ご旅行代金（稚内発着：お一人様）
127,400円（2名1室利用の場合）
 1人部屋追加料金（4泊分） 22,000円
- 募集人員：30名様（最少催行人員：15名様）
- お申込締切日：ご出発日の21日前
 （満席になり次第受付を終了いたします。）
- ご旅行代金に含まれるもの
- 稚内港からの添乗員同行費用
 - サハリン定期航空代金（稚内港～コルサコフ港～稚内港）往復2等客室
 - 宿泊代金：1日目の稚内グランドホテル（2名1室または1名1室利用）
 宿泊代金：ユジノサハリンスク市内ホテル（2名1室または1名1室利用）
 - 食事代金：朝食〔4回〕 昼食〔0回〕+船内弁当往復2回 夕食〔2回〕
 - 専用車：1日目：コルサコフ港～ユジノサハリンスク市内ホテル
 3日目：ユジノサハリンスク～プリゴロドノエ～ユジノサハリンスク
 4日目：ユジノサハリンスク～コルサコフ港
 - 日本語ガイド料
 - コルサコフ港でのミーティング及びセンディング料
 - コルサコフ港利用料金（フェリー代金を含む）・ロシア内税金
 - 旅行会社取扱手数料等
 - 査証免除制度申請手続き料金
 - 稚内港国際旅客ターミナル利用料金（400円）

- ご旅行代金に含まれないもの
- 日程表に明示された以外の費用は、含まれておりません。
 - サハリン定期航空の等級変更料金
 【1等ラウンジ：10,000円 1等客室：5,000円】
 - ホテルでの飲食代、電話代など個人的な費用。
 - 任意の海外旅行傷害保険
 - 超過手荷物料金

■アンケートのご記入をお願いいたします。
 旅行中に企画者からのアンケートのご記入をお願いしておりますので協力ください。



■お申込方法
 参加申し込み書に必要事項をご記入の上、バスポートのコピーと共に本都観光へご送付ください。また同時に申込金（10,000円以上で旅行代金まで）をお振込み下さい。
 なお旅行代金の他に、海外旅行傷害保険料などの残金は弊社指定日までにご指定口座にお振込み下さい。また請求書の必要方は弊社担当者へご連絡下さい。

オプションツアーのご案内

羽田空港⇄稚内空港 往復航空券 + 後泊セットプラン

◆ご旅行代金 お一人様（2名1室利用） **¥62,000円** **1泊朝食付!**
 1人部屋追加料金（1泊分） 1,000円 ◆最少催行人員：8名様

6/15 (月)	[ANA571 便]	羽田 10:30 発 → 稚内 12:20 着
6/19 (金)		稚内グランドホテル泊
6/20 (土)	[ANA572 便]	稚内 13:00 発 → 羽田 14:55 着

サハリン市内の夕食追加プラン

◆ご夕食代金 お一人様 **¥6,000円** ◆最少催行人員：8名様

6/17 (水) ユジノサハリンスク市内で夕食をお手配。

ドリンスク・栄浜日帰り観光（昼食）付き

◆旅行代金 お一人様 **¥11,000円** ◆最少催行人員：10名様

日	都市名	発着時間	交通機関	行程	食事
6/18 (木)	ドリンスク	09:00 から 14:30	専用車	旧唐合（ドリンスク）、ドリンスク駅、ドリンスク・レーニン広場・旧栄浜駅（宮沢賢治下車）、建地海岸で建地拾い、白鳥鑑など ※時間は現地時間です。	昼食

旅行のお申込み先

【受託販売】 北海道知事登録旅行業第 2-128 号
北都観光株式会社
 〒097-0022 稚内市中央4丁目5番29号 総合旅行業務取扱管理者 米田正博
 担当：米田（よねた）
0162-23-3820 FAX. 0162-22-4252
 受付時間：月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 17:00まで
[HTTP://WWW.HOKTOKANKO.CO.JP](http://www.hoktokanko.co.jp)

※総合旅行業務管理者とは、当社での取引の責任者です。この旅行の契約に関し担当者からの説明にご不明な点がありましたら上記総合旅行業務管理者にご質問ください。

海外募集型企画旅行条件書（抜粋）

お申込みの際、必ず旅行条件書をお読みください。旅行条件はパンフレットの内容・条件によるほか別途お示しする海外募集型企画旅行条件書、最終日程表並びに当社募集型企画旅行約款によりします。

1. 募集型企画旅行の目的
 本企画旅行の目的は、本社「海外」ツアー企画・募集・実施に関する企画旅行であり、この旅行に申込みされるお客様は必ず募集型企画旅行の募集要項をよくお読みください。本企画旅行の募集要項（パンフレット）の募集要項に記載されている募集要項のすべてを、本旅行の募集要項として「海外募集型企画旅行の募集要項」といたします。

2. 旅行の申し込み
 (1) 申し込み、本旅行の募集要項に規定の事項を記入し、およびパンフレット募集要項の25%以上旅行代金までお振込みいただきます。お振込みは本旅行の募集要項に記載の銀行口座へ必ずお振込みください。またお振込みの受付は、本旅行の募集要項に記載の受付期間内に行ってください。申し込みの受付は、本旅行の募集要項に記載の受付期間内に行ってください。

3. 旅行の成立と募集要項の遵守
 (1) 募集要項に記載の募集要項、本旅行の募集要項に記載の募集要項のすべてを募集要項として募集いたします。
 (2) 募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。ただし、募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

4. 旅行のキャンセル
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

5. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

6. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

7. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

8. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

9. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

10. 旅行のキャンセル料
 (1) 本旅行の募集要項に記載の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様は、本旅行の募集要項に記載の募集要項を遵守しないお客様として扱われます。

サハリン旅行にはパスポートが必要で、(ロシア出国時、獲得期間が6か月以上あるパスポートが必要)

4. 地理的關係・行程



国境観光を実施している各地域は、いずれも戦前は日本の植民地と隣接しており、それらの地域と内地とを結ぶ交流拠点であり、対馬と釜山、稚内とサハリン、八重山と台湾は、政治や経済、生活や文化などにおいて密接な関係を有していた。戦後は、国境が閉ざされていた時期があり、交流再開後も国境が障壁となって、かつてのような密接な関係を築くことはできなかった。ところが、近年、国境を越えた交流が地域振興の関係で見直されており、交流活発化の施策の一つとして「国境観光」に注目が集まっている。



- 第1日目（15日）：稚内空港集合→稚内市内観光へ
- 第2日目（16日）：稚内→コルサコフ（ユジノサハリンスクへ）
- 第3日目（17日）：コルサコフ・ユジノサハリンスク観光など
- 第4日目（18日）：自由行動、OP（ドリンスク日帰観光）
- 第5日目（19日）：コルサコフ→稚内（解散）



第1日目（15日）：稚内空港集合→稚内市内観光へ

稚内に集合した参加者は、稚内市役所の協力で、宗谷公園（史跡：宗谷場所跡）、宗谷丘陵（北海道遺産・風力発電基地）、宗谷岬公園（最北端の地碑、旧海軍望楼、大韓航空機墜事件慰霊碑など）、開基百年記念塔（北方記念館）などを観光した。地元の人たちに詳しい説明をしてもらったことが、通り一遍の観光とは異なり、深い印象を与え、稚内観光の魅力を高めたといえよう。

全コースにわたる案内および解説：中川善博（稚内市役所）

開基百年記念塔（北方記念館）での解説：斉藤学芸員



第2日目 (16日) : フェリーで稚内港からサハリンのコルサコフ港に移動

5時間半の乗船時間の一部を利用して、北海道大学の岩下明裕先生や中京大学の古川浩司先生の短い講義や自己紹介が行われた。

第3日目 (17日) : プリゴドノエ (液化天然ガス工場、日露戦争日本軍上陸記念碑)、コルサコフ (旧大泊港を見下ろす韓国人望郷の丘、市役所前のレーニン像)、ユジノサハリンスク (州立博物館、勝利広場、シティ・モール) などを観光した。ロシア人の現地ガイドの案内の他、上陸記念碑や博物館などで、サハリンの歴史に詳しい北大の井潤裕先生に解説してもらった。

5. アンケート集計結果

モニターツアー参加者に対して、旅行中に3回のアンケート調査を実施した。アンケート内容は、先行する対馬・釜山のモニターツアーのアンケート結果と比較するため、質問事項を調整した。

アンケート用紙（第1回アンケートの1と2頁のみ）

国境観光モニターツアー アンケートご協力をお願い

このたびは、稚内・サハリンモニターツアーにご参加いただきありがとうございます。

私たち、国境地域研究センター、北海道大学の2研究機関は、日本とロシアの国境に面した稚内とサハリンをフィールドにした“国境観光(ボーダーツーリズム)”の可能性について研究しています。今回のモニターツアーを通じて、わが国で、最近ようやく始まった“国境観光”の実現可能性を明らかにしたいと考えておりますので、楽しいご旅行の最中にご面倒をお掛けしまして恐縮ですが、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

■アンケートの実施について

- ・ アンケートは、時間に余裕のあるときにご協力いただけるよう、3回に分けて実施いたします。
- ・ 主に集合場所での待ち時間や移動の飛行機・船の中でご記入いただくことを想定しています。
- ・ アンケートの配布予定と回収予定は以下のとおりです。

①回目	配布：稚内空港での集合時(本用紙)	回収：2日目集合時
②回目	配布：稚内港でコルサコフ行きフェリーの乗船時	回収：2日目夕食時
③回目	配布：コルサコフ港で稚内行きフェリーの乗船時	回収：稚内港での解散時

※ 回収予定はあくまでも目安です。せっかくのご旅行が乗り物酔いで台無しになってしまうぬよう、無理のない範囲でご記入ください。博多港での解散時までにご記入いただければ結構です。もしも解散時まで間に合わなければ、後日郵送という形で対応させていただきます。

■あなたご自身について教えてください

【お名前】 _____様

【性別】 1. 男性 2. 女性

【年齢】 _____歳

■旅行を始める前のことについて教えてください

問1 今回の旅行の形態として、最も近いものは以下のどれですか？

1. (お子様連れの)家族旅行
2. 大人の親子旅
3. 夫婦での旅行
4. 友人・恋人との旅行
5. 一人旅
6. その他(_____)

裏面へ続きます

問2 今回の旅行申込にあたっては、どなたが主体的に関わりましたか？

(最も近いもの一つに○)

1. 回答者ご本人が決めた(他の人に積極的に提案した)
2. 誰かが積極的に提案したというよりは、皆で話し合っ行ってこうという話になった
3. 他の人が提案(決定)し、一緒に行くことになった

問3 この旅行を申し込む際に参考にした情報を教えてください。

(最も参考にした情報一つに○)

1. 旅行会社の募集
2. 新聞の記事(_____新聞)
3. 関係機関の facebook 記事
4. _____のホームページ
5. 知人の口コミ(紹介)
6. 国境地域研究センターの案内
7. HIECC の案内
8. その他(_____)

問4 これまで稚内を何回ぐらい訪問したことがありますか？

(今回の訪問は含まずにお答えください)

1. 初めて
2. 二回目
3. 三～四回目
4. 五～九回程度
5. 十回以上
6. 以前住んでいた経験がある

問5 これまでサハリンを何回ぐらい訪問したことがありますか？

(今回の訪問は含まずにお答えください)

1. 初めて
2. 二回目
3. 三～四回目
4. 五～九回程度
5. 十回以上
6. 以前住んでいた経験がある

問6 稚内の集合地までの移動(出発地・経由地・交通機関)について教えてください。

1. 出発地 : _____から
2. 経由地・交通機関

(1) 参加者の概要

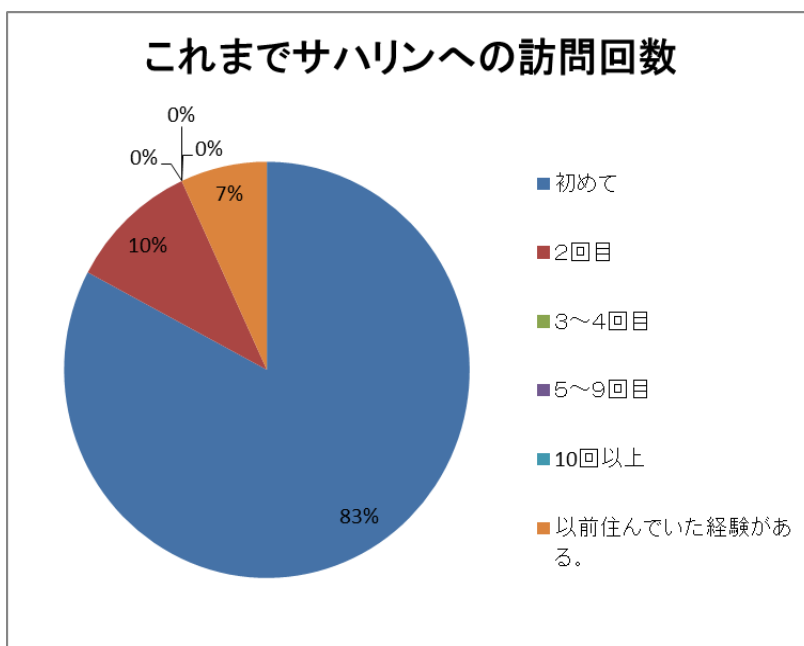
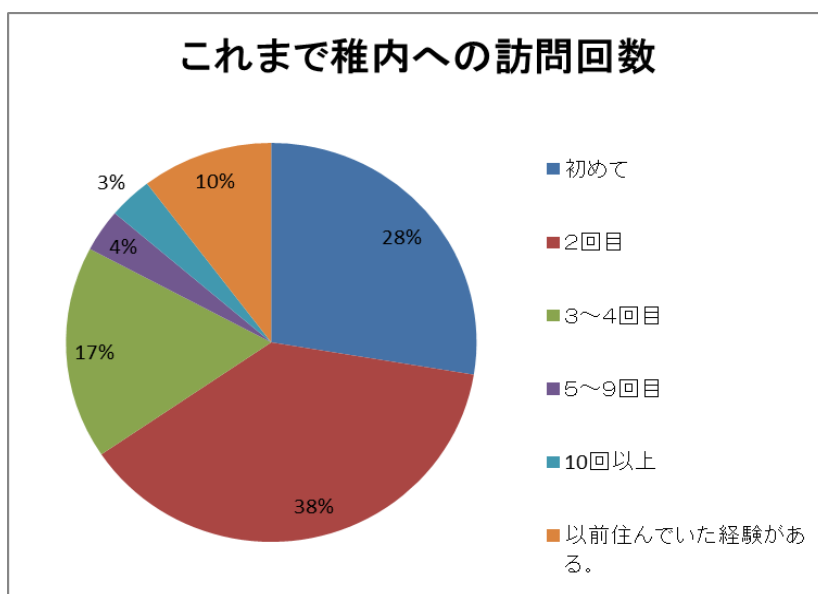
・参加者は 32 名（男性 20 名女性 12 名） この他に主催者 2 名・業者 3 名。報道関係 3 名→【対馬・釜山は 23 名（男性 15 名、女性 8 名）】

・平均年齢 56.7 歳（男性 58.1 歳・女性 55.8 歳） 最高年齢は 86 歳で 60 歳以上は 17 名。

→【平均年齢 64 歳で最高年齢は 82 歳】

・居住地は、道外 14 名（3 名は九州）、道内 18 名（7 名は札幌で 2 名が稚内）。→【約半数が地元福岡で、熊本、山口、岩手、札幌など】

Q：稚内・サハリンを訪問したことがあるか（N=32）。



これまでの稚内およびサハリンへの訪問回数を質問したところ、稚内の場合は「初めて」との回答は28%に過ぎなかったのに対して、サハリンの場合は83%という多数が「初めて」と回答した。利尻・礼文を擁して既に観光地となっている稚内に対して、一般的な観光地とはなっていないサハリンとの差が出た。→対馬・釜山の場合は、【対馬が「初めて」は64%に対して、釜山が「初めて」は36%と反対の結果であった】

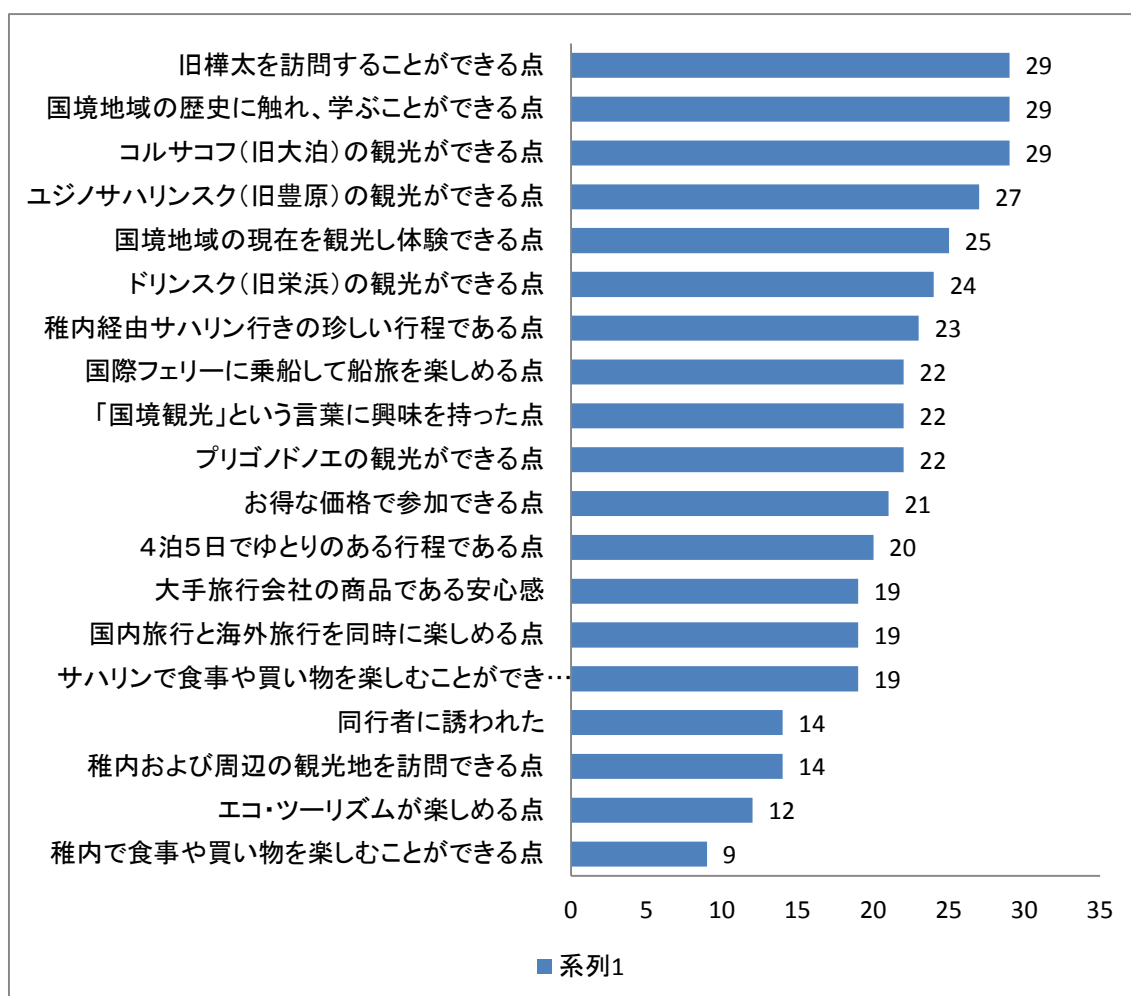
(2) ツアー申し込みの決め手

多くの参加者が申込の段階で「サハリン（樺太）」ないし「国境」に関する項目が決め手となっていた（上位10項目）。

一般的な稚内観光では定番となっている食事（ウニ、タコ、カニなど）や買い物（海産物の土産など）は、今回は、あまり決め手にはならなかった。

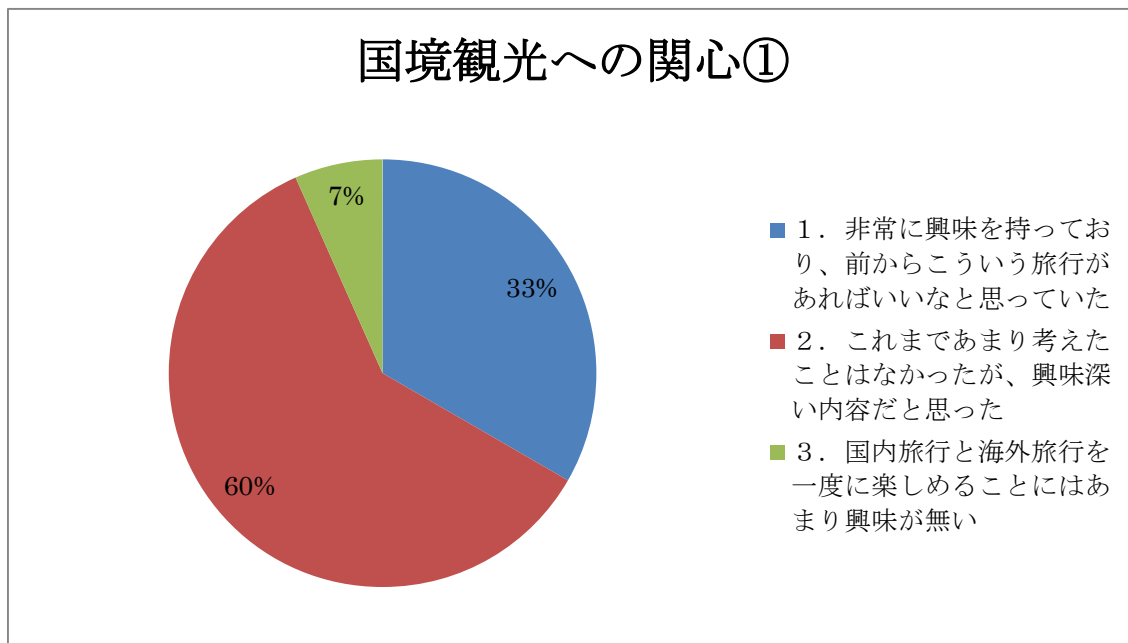
すなわち、食や土産を中心とする一般的な観光とは異なるニーズがあると考えられる。

Q: 今回の旅行を申し込む決め手となった点はどのような点でしたか（複数回答可）？

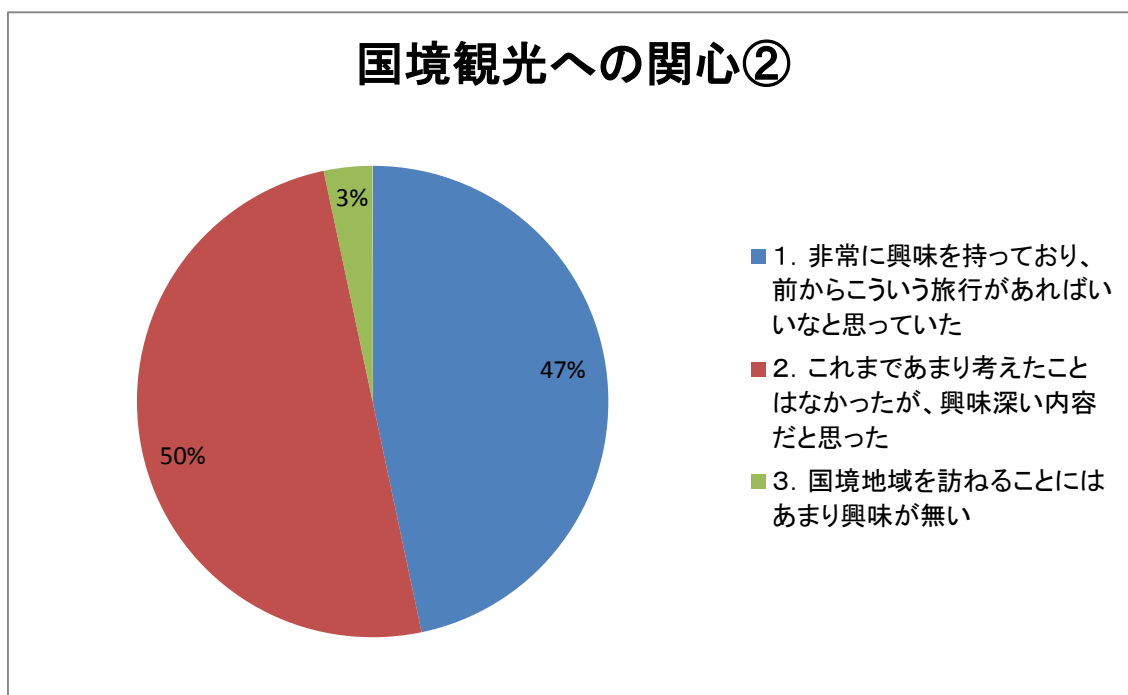


(3) 国境観光への関心

Q：国内・海外旅行を一度に楽しめる今回のような旅行には、どの程度興味を持っていますか？（最も近いものを一つを回答）



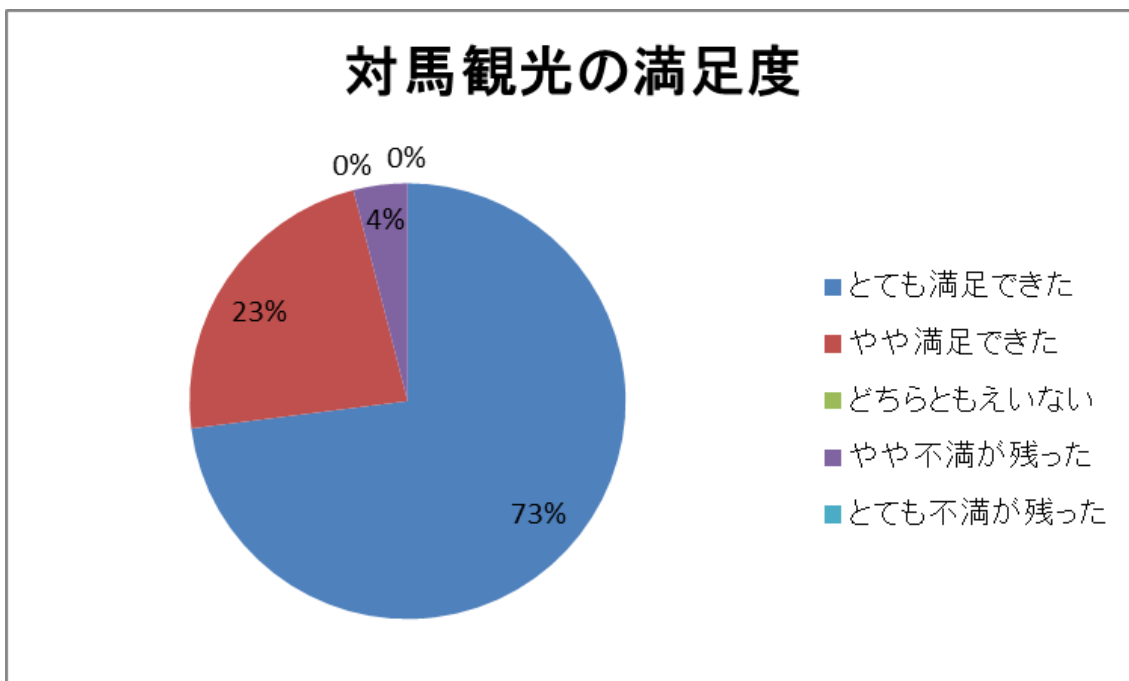
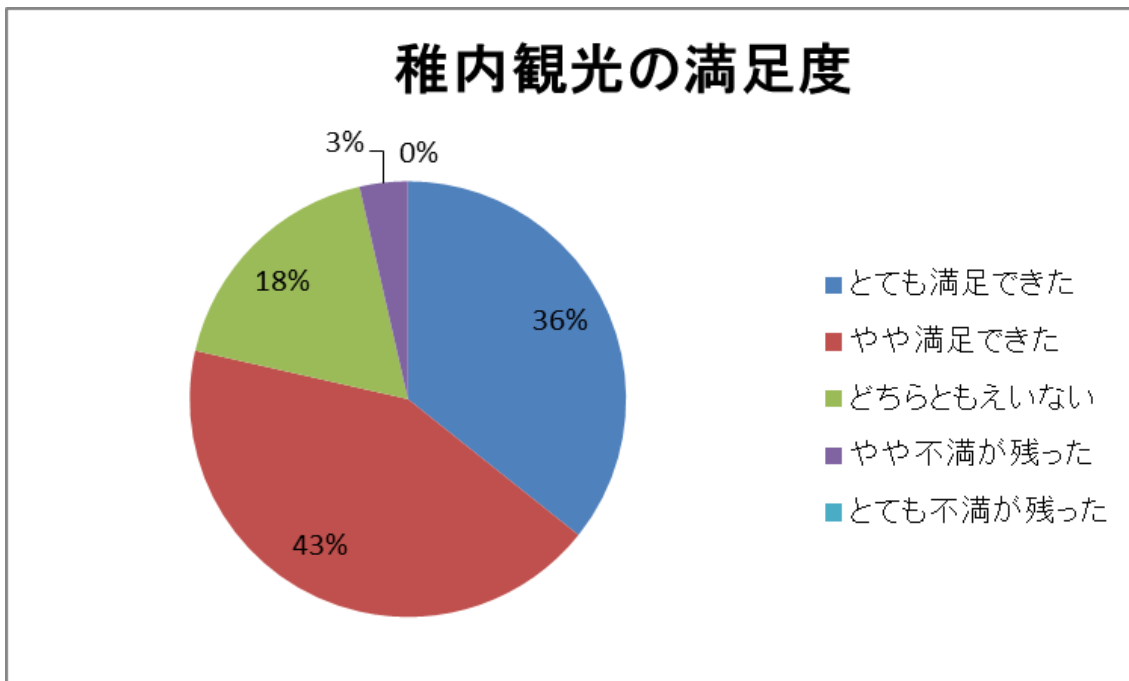
Q：国境地域を訪ね、いろいろと体験し、勉強することができる今回のような旅行には、どの程度興味を持っていますか？（最も近いものを一つを回答）



(4) 稚内観光への満足度

Q:稚内の観光はいかがでしたか

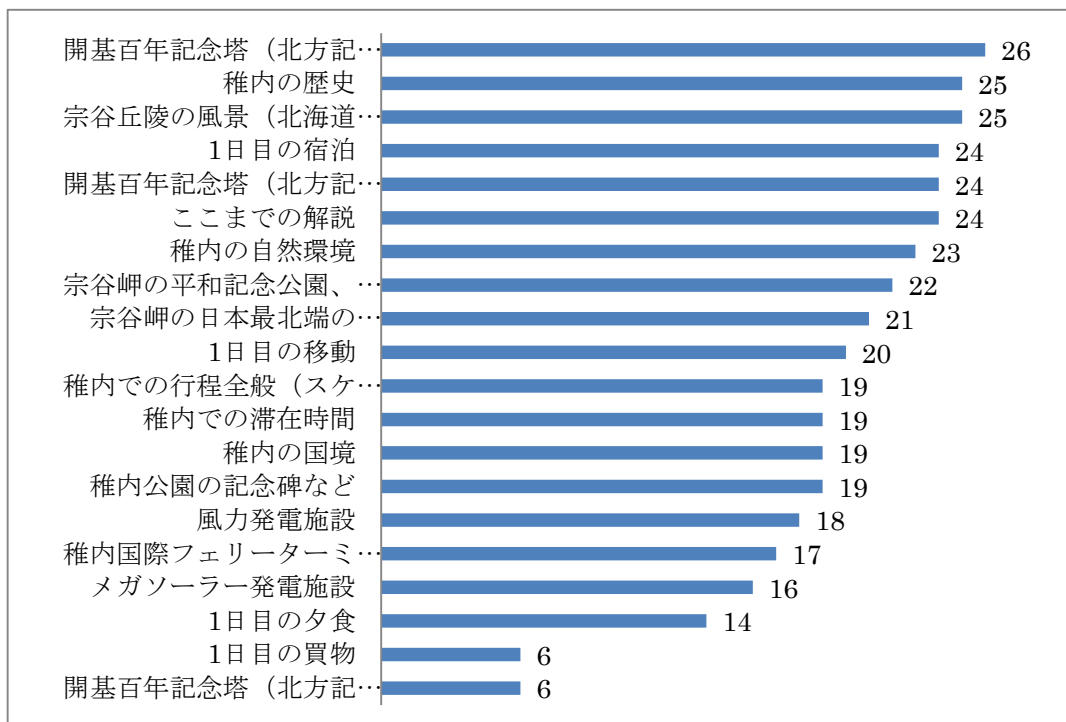
とても満足・やや満足を合わせて80%が満足したと回答（対馬の96%には及ばなかった）。



(前掲 花松報告書より)

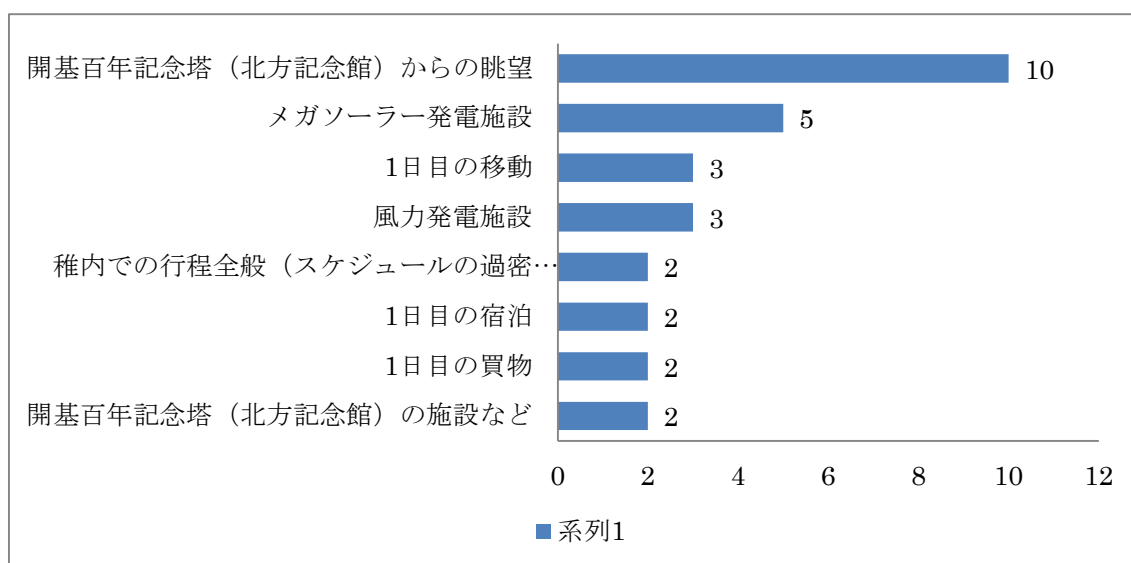
(5) 稚内観光で印象に残ったもの・満足したこと

開基百年記念塔（北方記念館）での斉藤学芸員による解説（第1位）、稚内市役所の中川さんが添乗して行った解説（第6位）の評価は概ね高く、これが稚内の歴史（第2位）や観光施設を魅力を高めたと考えられる。他方、エコツールズムを意識して組み入れた風力発電施設やメガソーラー発電施設の評価は概ね低かった。



(6) 稚内観光で物足りなかったこと・残念だったこと

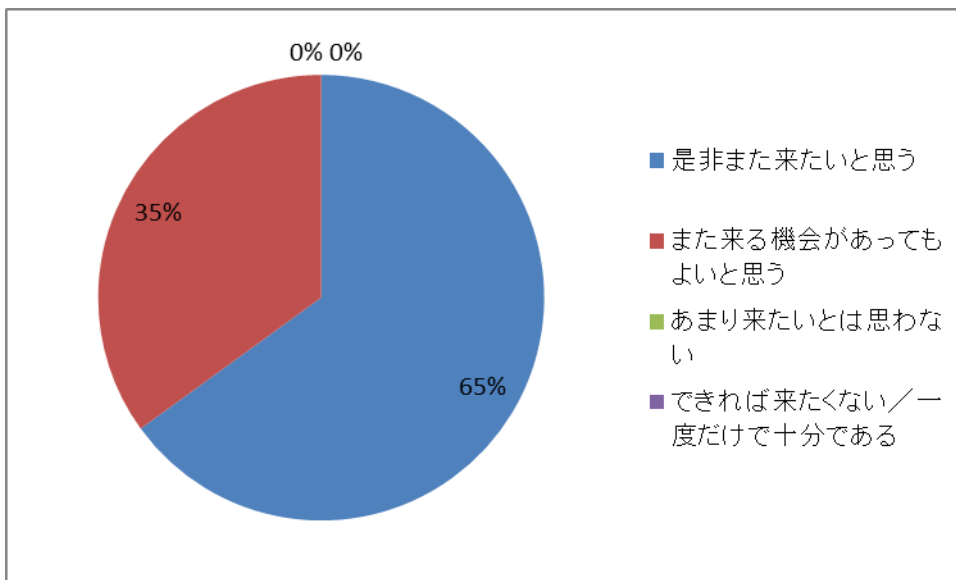
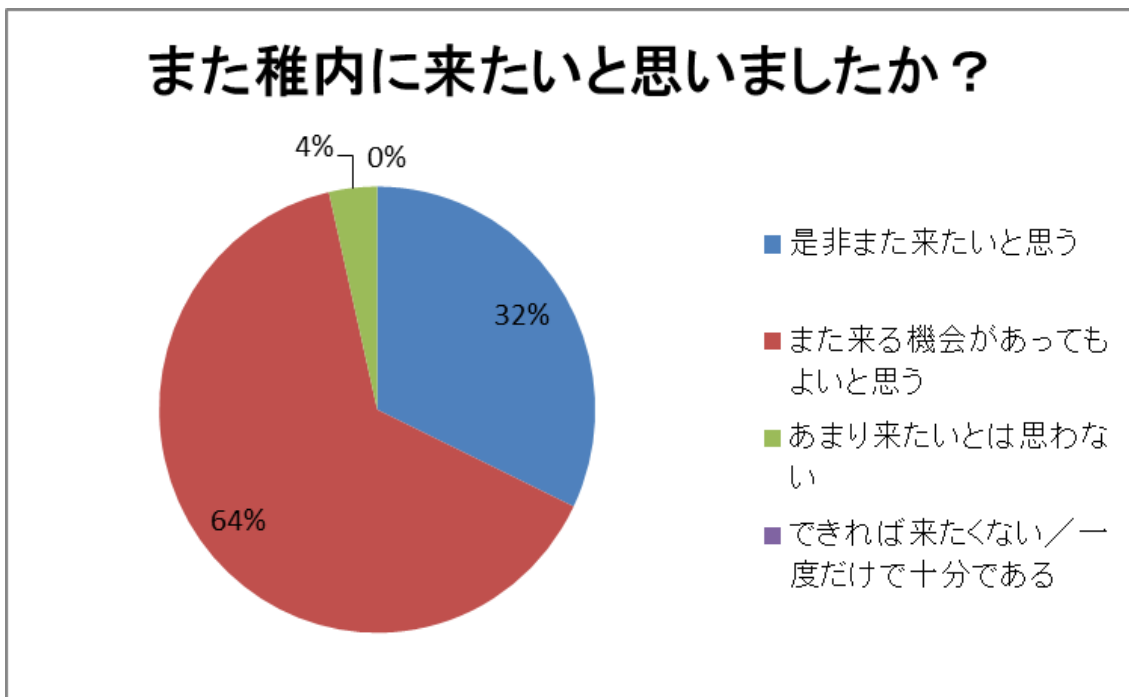
開基百年記念塔は濃霧のため視界が悪く評価外であった。
日程がタイトでこの日は買い物をする時間がとれなかった。



(7) 稚内再訪の意向

Q：また稚内に来たいと思いませんか？

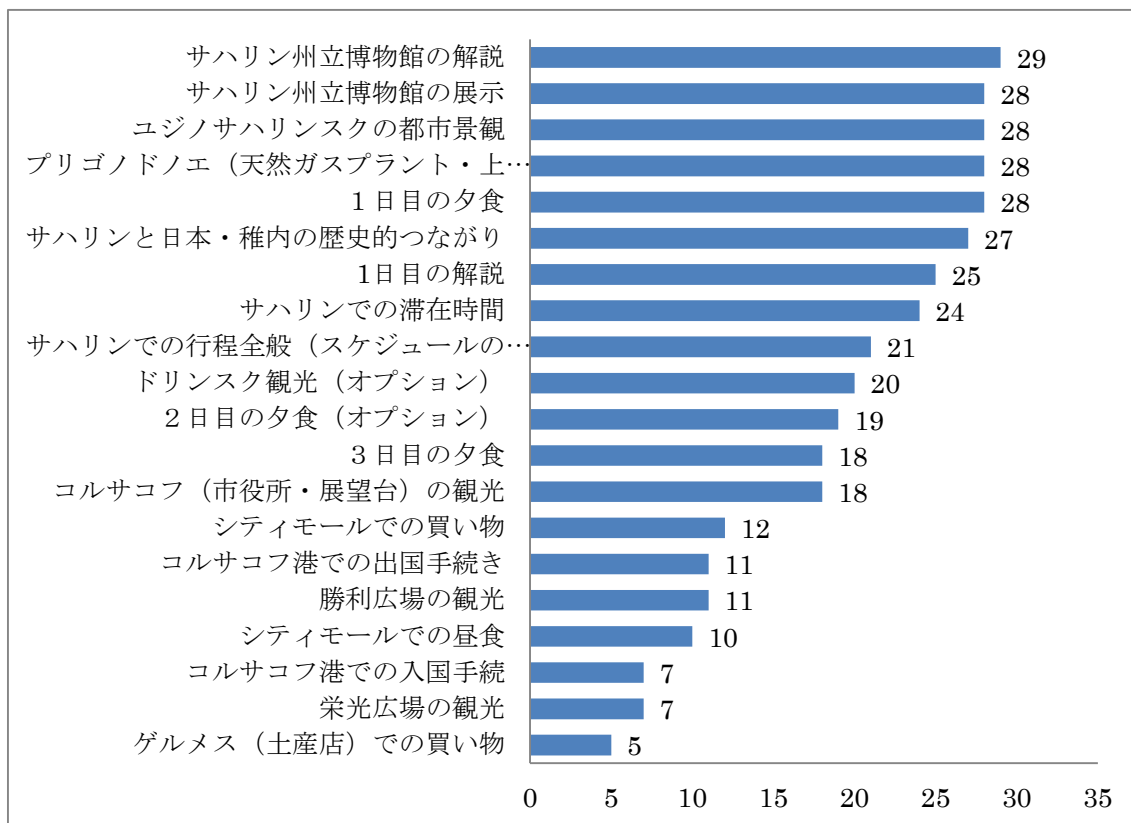
リピーターの可能性はあるが「是非また来たいと思う」の項目で稚内と対馬の差が現れた。



(前掲 花松報告書より)

(8) サハリン観光で印象に残ったもの・満足したこと

Q：サハリンでの滞在で印象に残ったもの・満足したことは何ですか？

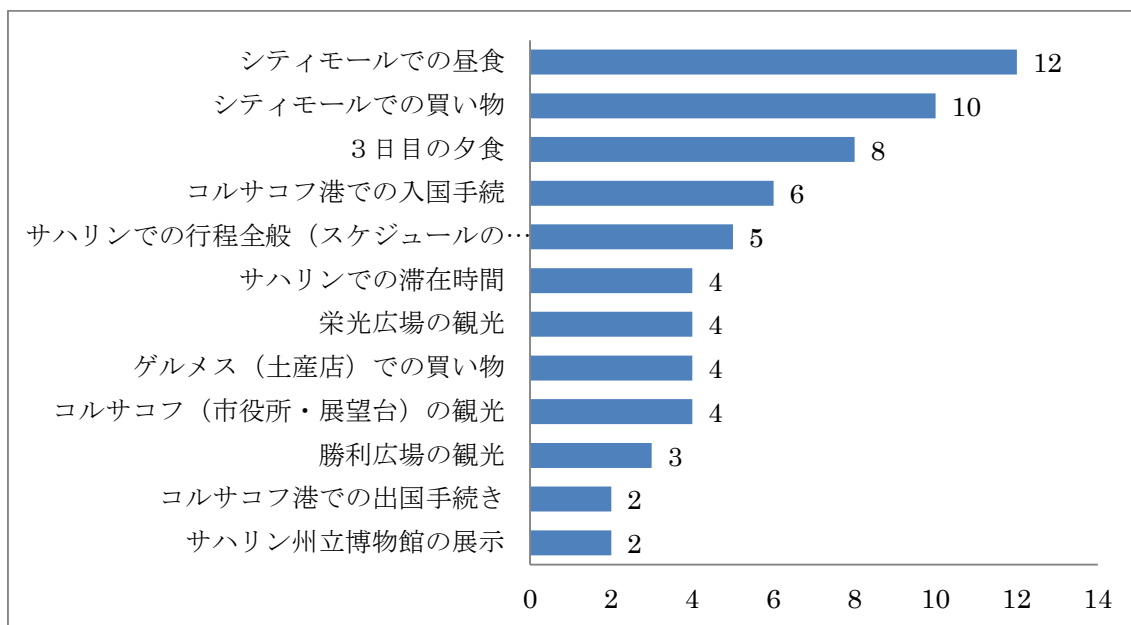


州立博物館では北大スラ研の井潤さんの解説（第1位）が行われ、これも好評で博物館の展示（第2位）の魅力を高めたと思われる。同様にプリゴノドノエ（第4位）やサハリンと日本・稚内の歴史的つながり（第6位）にも良い効果を与えたのではないかと考えられる。

入国審査と通関には時間がかかり、通常これが不満の原因となるが、「おかげで外国に来たことを実感できた」との意見もあった。

(9) サハリン観光で物足りなかったこと・残念だったこと

Q：サハリン観光で物足りなかったこと残念なことは何ですか？

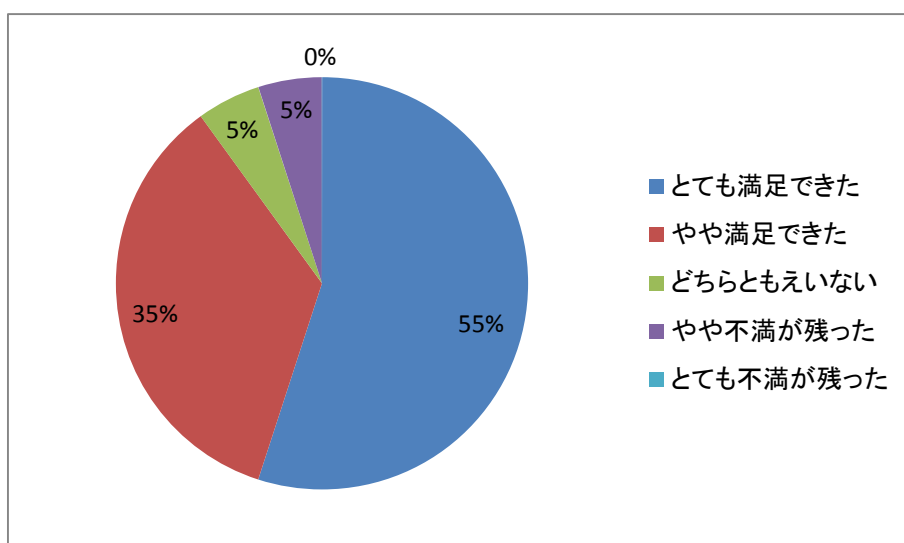
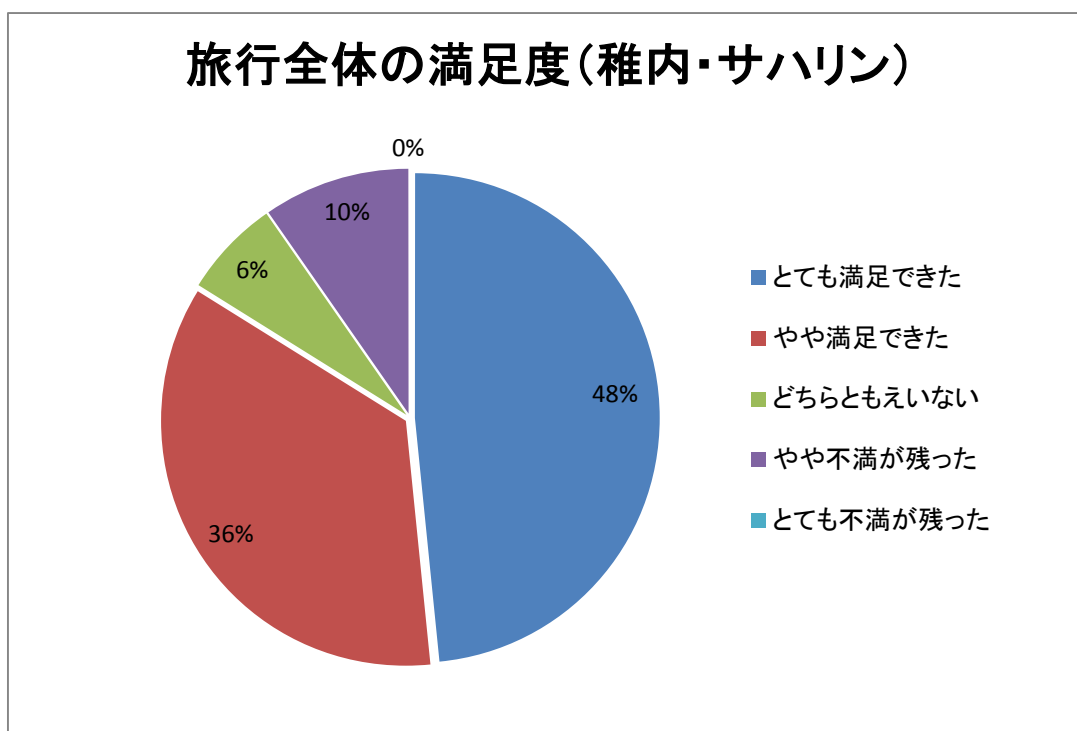


予定していた買い物の時間がとれず、不満の声（やや物足りなかった・かなり物足りなかった、不満が残った）が聞かれた。

(10) 旅行全体の満足度

Q：今回の旅行全体の満足度について教えてください。

旅行全体の満足度に関しては、ほぼ半数が「とても満足できた」と回答し、「やや満足した」を合わせて 84%が満足した。他方、「やや不満が残った」が 10%で、対馬・釜山の 2 倍であった。

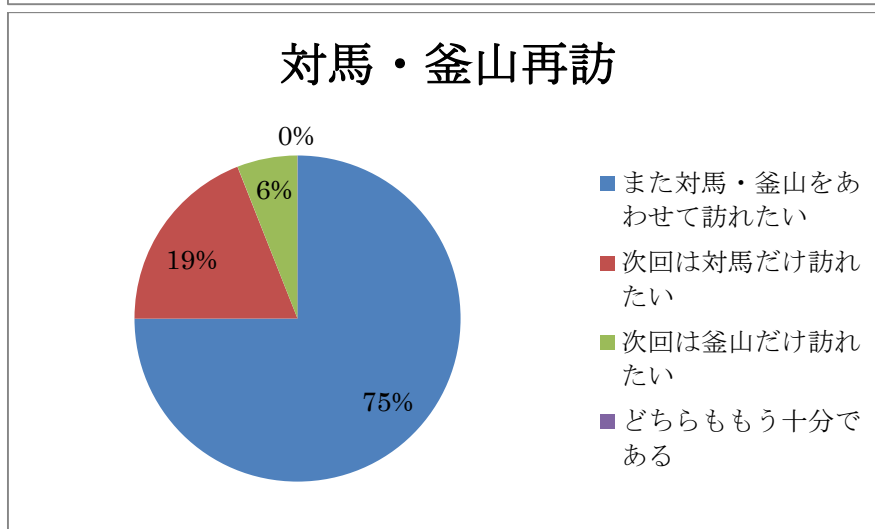
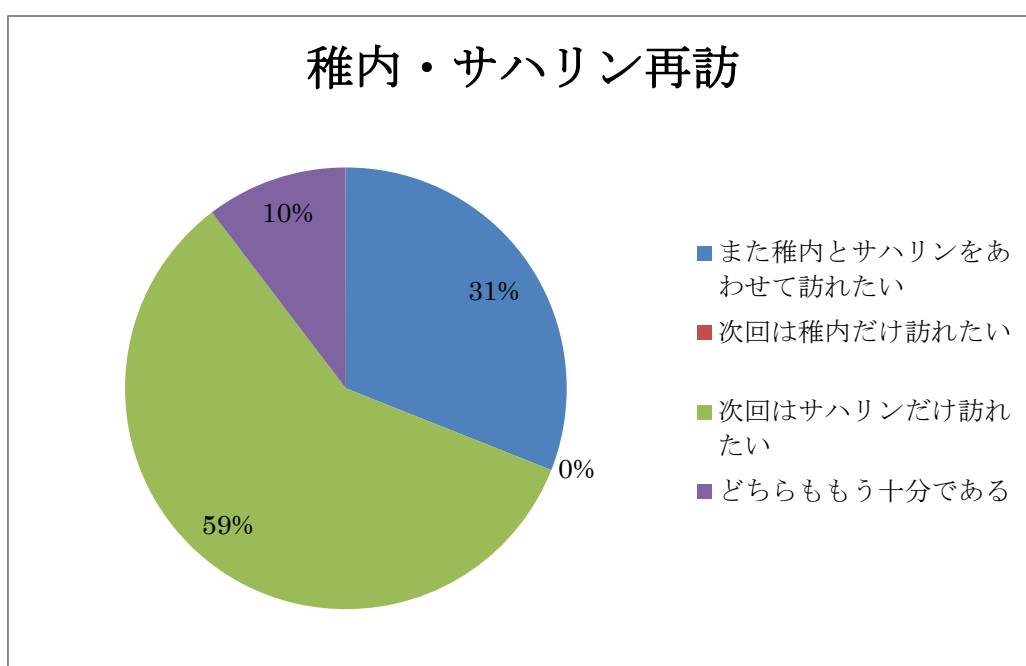


(前掲 花松報告書より)

(11) 稚内・サハリンへの再訪の意向

Q：稚内・サハリンを。また改めて訪れてみたいと思いませんか？

31%が「稚内とサハリンをあわせて訪れたい」とし、半数以上の59%が「次回はサハリンだけ訪れたい」としたのに対し、「次回は稚内だけ訪れたい」との回答は0%だった。また、「どちらももう十分である」との回答も10%に達した。これら是对馬・釜山の場合と際だった差異が生じた。利尻・礼文だけでなく、サハリンとの関係でも稚内は通過点とのイメージが強いのだろう。通過型観光からの脱却が稚内の課題だといえよう。

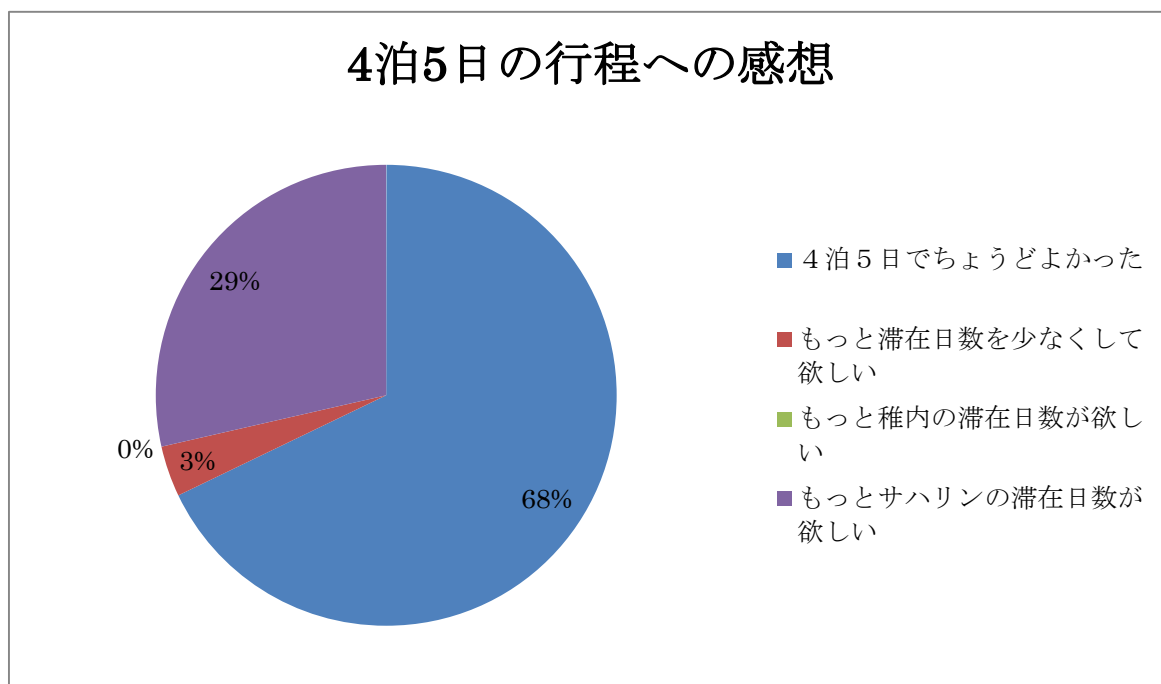


(前掲 花松報告書より)

(12) 4泊5日の行程について

Q：4泊5日の行程について、どう思われましたか？ (N=27)

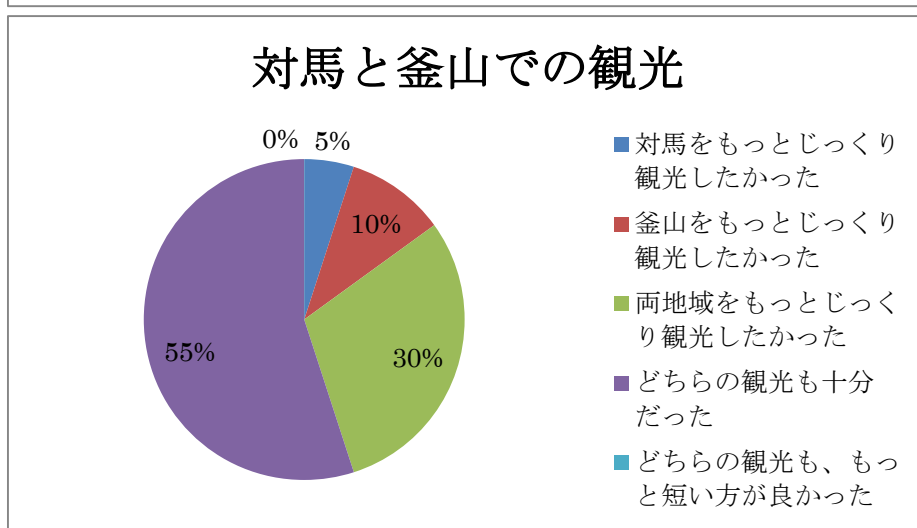
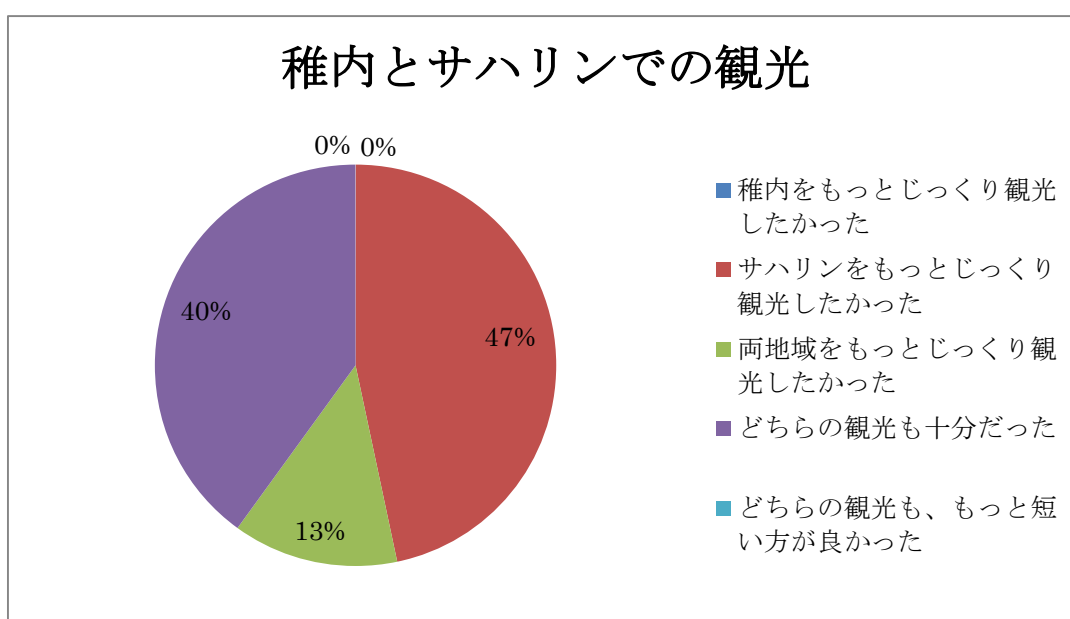
およそ7割の人が4泊5日の行程に満足したが、約3割は「もっとサハリンの滞在日数が欲しい」と回答した。わずか3%だが「滞在日数を少なくして欲しい」との回答があったのに対して、「もっと稚内の滞在日数が欲しい」という意見はなかった。



(13) 両地域での観光の感想

Q：稚内とサハリンの両地域での観光について、どのように感じられましたか？（N=30）

40%が「どちらの観光も十分だった」と回答するが、「サハリンもっとじっくり観光したかった」47%と「両地域をもっとじっくり観光したかった」13%を合わせて60%の人がもっとじっくり観光したかったと回答した。対馬・釜山では半数以上の55%がどちらの観光も十分だったと回答したのと比較すると、サハリンを中心に、まだまだ観光の潜在能力があるといえよう。

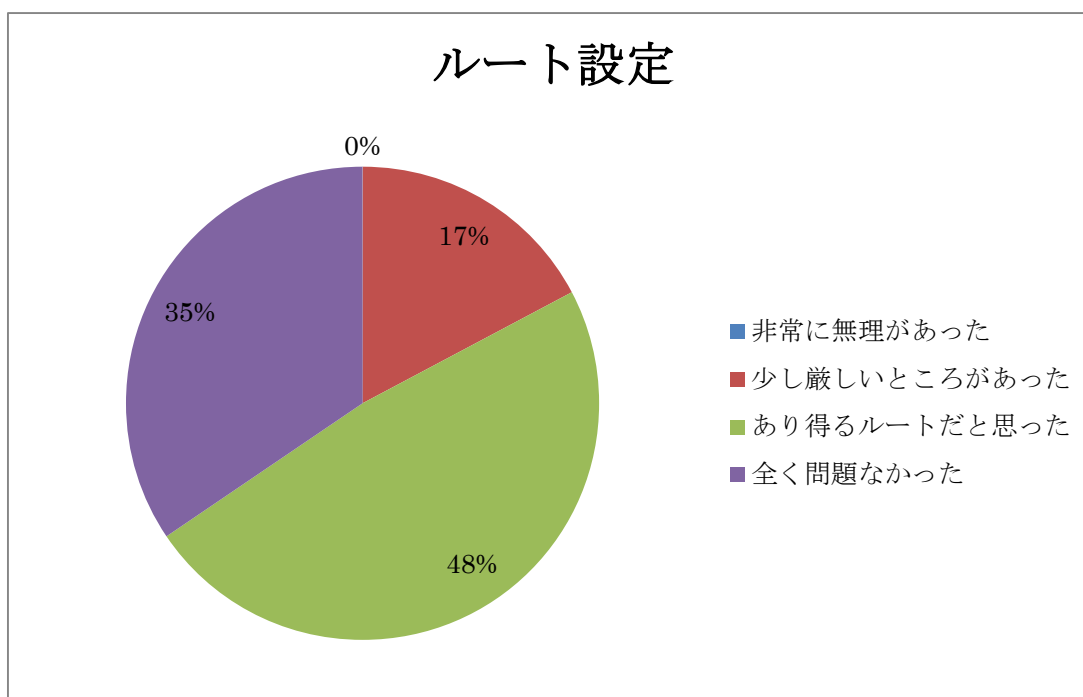


(前掲 花松報告書より)

(14) ルート設定

Q：今回の「東京・札幌→稚内→サハリン→稚内→東京・札幌」というルート設定についてお聞かせ下さい。（N=29）

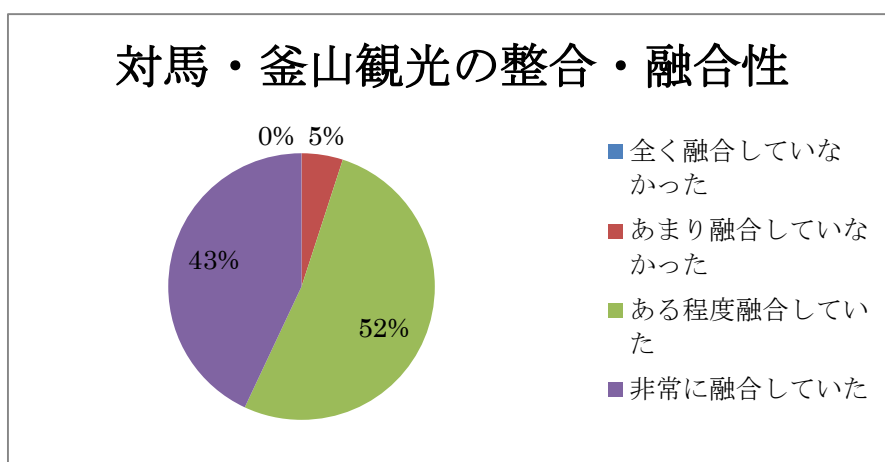
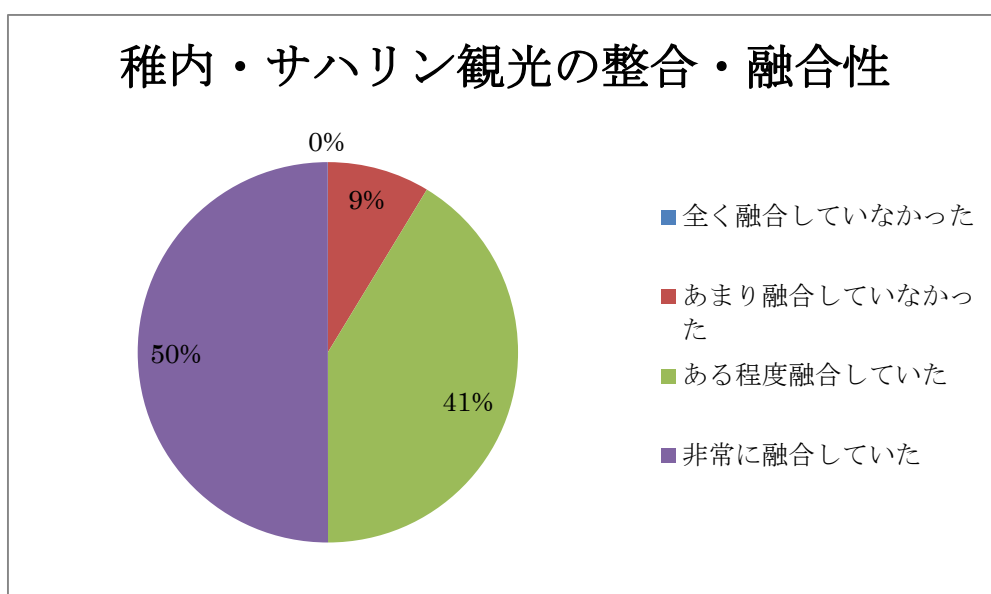
非常に無理があったとの回答はなかったが、17%が「少し厳しいところがあった」と回答。しかし、「全く問題がなかった」35%を含む83%の人は無理を感じなかった。



(15) 観光内容の融合・整合性

Q：今回のツアーで、稚内とサハリンでの両地域の観光内容は、一つの旅行商品としてうまく融合されていましたか？

9%が「あまり融合していなかった」と回答したが、「全く融合していなかった」は0%で、「ある程度融合していた」41%と「非常に融合していた」50%を合わせて91%の参加者が一つの旅行商品として「融合」していたとの回答を得た。対馬・釜山の「ある程度融合していた」52%と「非常に融合していた」43%と比較して、稚内・サハリンの方が「非常に融合していた」が多い結果となった。



(前掲 花松報告書より)

(16) 稚内・サハリンの両方を経験済みの5名への質問

回答してくれた29名の内、5名が稚内とサハリンの両方を経験済みであった。その5名の回答を抜き出したところ以下のような結果であった。また、【…】は対馬・釜山の両方を経験済みの6名の回答。

Q：全体の満足度について

4名が「非常に満足した」、1名が「やや満足した」と回答【4名が「非常に満足」、1名が「やや満足」、1名が「対馬は満足、釜山は不満」と回答】。

Q：稚内・サハリンの再訪の意向について

3名が「次回はサハリンだけ訪れたい」、2名が「また稚内とサハリンとあわせて訪れたい」と回答【5名が「再度対馬と釜山を合わせて訪れたい」、1名が「次回は対馬だけ訪れたい」と回答】。

Q：4泊5日の行程について

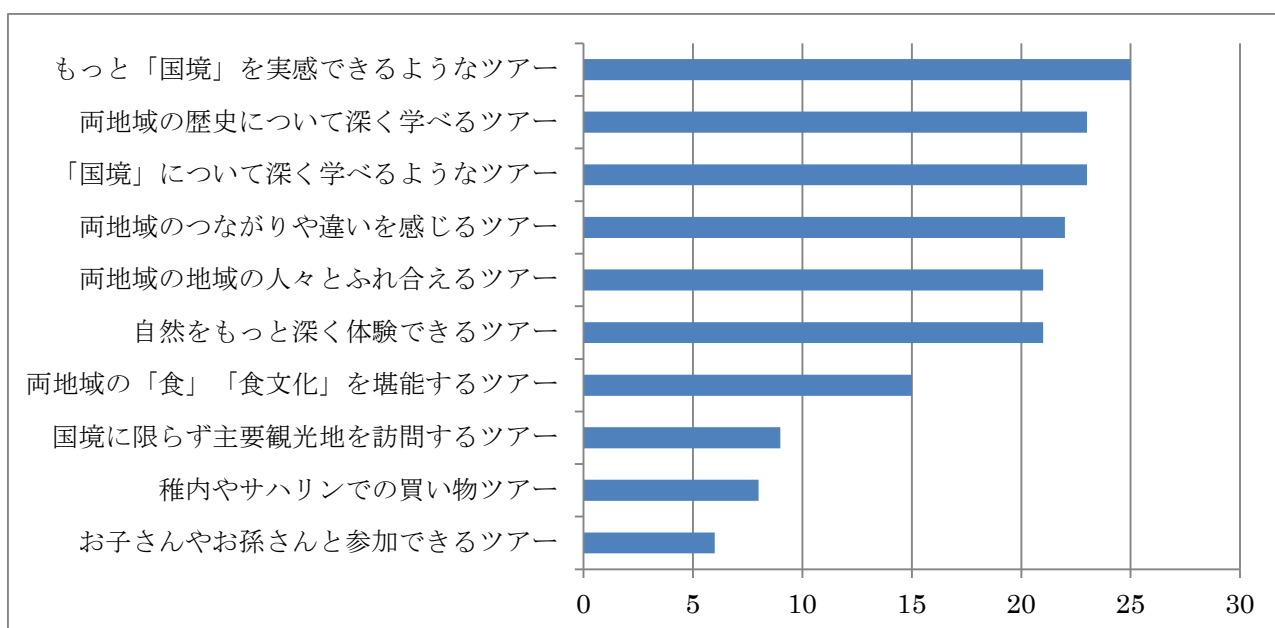
3名が「ちょうど良い」、1名が「もっとサハリンの滞在日数が欲しい」と回答（1名は無回答）【2泊3日の行程について、5名が「ちょうどよい」、1名が「もっと滞在日数が欲しい」と回答】。

稚内とサハリンの両方を経験している方々の満足度も高く、「国境観光」の手応えを強く感じる事ができた。次回はサハリンだけ訪れたいとの回答が多かったことから、今後は稚内における「国境観光」の内容の充実が課題となる。

(17) 今後、どのような国境観光商品が望まれるのか？

Q：今回のモニターツアーと同じく「稚内経由サハリン行き」の国境観光旅行の商品を今後販売するとした場合、どのような内容のツアーがあれば参加したいと思われますか？

もっと「国境」を実感し（第1位）、「国境」について学べるツアー（第3位）、稚内とサハリンの歴史についてもっと深く学べるツアー（第2位）、つながりや違いをもっと感じるツアー（第4位）が上位となり、反対に「国境」とは無関係な項目がいずれも下位となり、「国境観光」に対する手応えを強く感じる事ができた。



(18) 予算額と消費額の差異

観光による地域振興を考えた場合、食事やサービス、土産品の買い物など、地元で消費してもらう仕組みづくりが重要な課題となる。今回のモニターツアーで、予算と実際の消費について調査したところ、稚内でもサハリンでも、予算ほどには消費されなかったことが判明した。例えば、稚内では差額はマイナス 3,113 円だったが、地元商工会議所から地域振興券 2,000 円分が配布されたので、実際の消費額はマイナス 1,113 円ほどで、またアンケート終了後の出発前に駅周辺や空港で土産を買うことが予想され、ほぼ予算程度の消費がなされたと推測することができる。これに対して、サハリンにおいては、バス移動やトイレに時間がとられ、土産品を買う時間を十分にとることができなかった。それでもマイナス 1,682 円で、十分に時間を取ることができれば、予算以上の消費を期待できるのではないだろうか。消費を拡大するためには、稚内でもサハリンでも、行程の中に上手に消費の機会を作る必要がある。

これに対して、対馬・釜山では、釜山で予算を 9,238 円も上回る消費がなされた。しかし、ガイドによる誘導や回数の多さに対しては不満も出されていた。その意味でも、旅行者のニーズに合わせた適切な工夫が必要である。

稚内での予算／ひとり		稚内での実際の消費額／ひとり
	→	
11,077円	▲3,113円	7,964円
サハリンでの予算／ひとり		サハリンでの実際の消費額／ひとり
	→	
18,571円	▲1,682円	16,889円
対馬での予算／ひとり		対馬での実際の消費額／ひとり
	→	
11,348円	▲4,145円	7,173円
釜山での予算／ひとり		釜山での実際の消費額／ひとり
	→	
12,217円	9,238円	21,455円

(19) 稚内観光に関するコメント

- ・解説があると充実度が倍増する。一通り回ったことがあるが、ガイドとともに回るとことで新たな発見があり、満足した。風力・太陽光発電の解説は知的好奇心を刺激し、魅力的だった。
- ・赤煉瓦通信所跡、ドーム内の稚内港駅跡など、時の経過、終戦時の混乱の様子など、具体的な歴史が語られると良かった。
- ・全体に忙しかった。国境にメガソーラーは不要では。宗谷岬周辺でも解説がほしかった。稚内の見せたいとこちらの見たいにミスマッチ。
- ・稚内の訪問地（赤レンガ送信所、ドーム、副港市場の展示。戦前をもっとアピールすべきだ。
- ・稚内市役所の担当者が同乗して解説してくれたり、地域振興券が配布されたりと、稚内の意欲が感じられた。
- ・稚内に居住している人も、地元の歴史を振り返る機会になると思う。

(20) サハリン観光に関するコメント

- ・食・歴史・考古学・ソビエトなど国境+もう一つというぐあいに、さらに狭めた商品もあって良い。レーニン像が残るサハリンならソビエトというテーマもあり得るだろう。

(21) 今回のツアー全体に関するコメント

- ・国境地域に住む現地人が伝導人として歴史や文化を語る、そのレベルに進展すれば一層魅力的な商品になると思います。
- ・船で徐々に外国へ行くことができ良かった。飛行機は連続性が途切れますが、船だと断絶されず、サハリンが稚内の北にあるという当たり前のことに気づきました。
- ・連続しているのに国境を引いたが故に文化や言葉など全てが違うというのは不思議な感覚です。船内でロシア語の講座があっても良かったかなと思います。
- ・国境の社会・経済・文化・政治的意味を、歴史に限定することなく解説するようなレクチャー付のスタディツアーがあれば学生を対象とした商品として成立すると思う。
- ・二つの博物館を見て似た文化から別途に発展したことを比較でき面白かった。解説で色々勉強できて感謝している。ショッピングの時間が少なかった。
- ・全体として良かった。国境ツアーは是非とも続けて欲しい。ただ、サハリンの人たちとの交流の機会がほしかった。
- ・かつての日本の歴史を辿り、当時の面影をわずかではあるが訪ねることができて有意義。

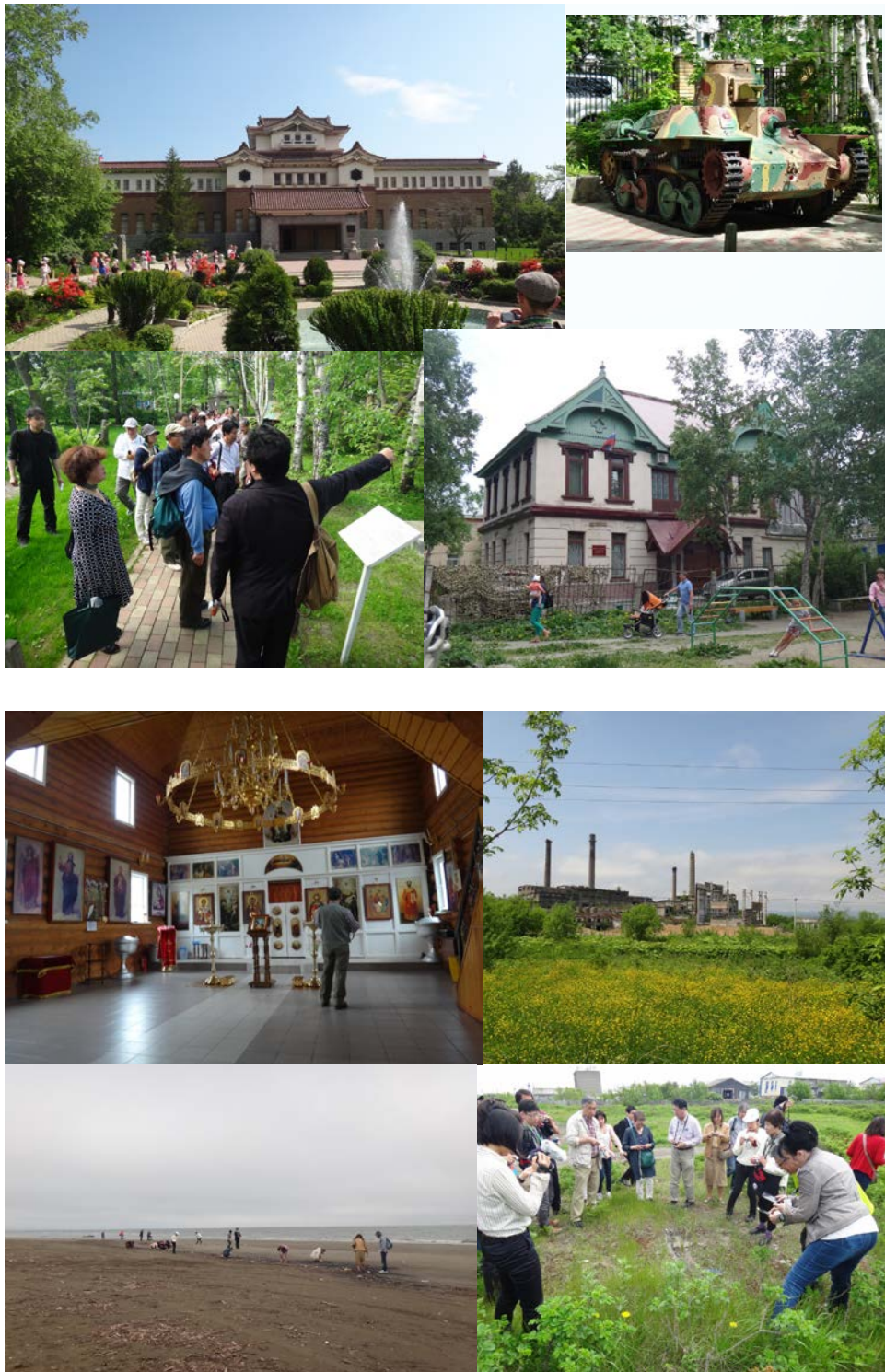
(22) 今後の課題について

- ・多様なニーズに合わせたテーマを設定し、複数のコースを用意できるか(集客できるか)。
- ・ボーダーに関するテーマを説明できるガイド集団を養成できるか(地元の大学との協働)。
- ・地元の人たちとの交流の場を設定できるか(地元の祭りなどイベントへの参加を含む双方向の観光交流を実現すべきである)。
- ・地元発の情報発信力(多言語)を高める仕組みづくり。
- ・外国語の表示や説明、トイレなどの基本的なインフラ整備(ドリンスクやプリゴノドノエなど、地方の資料館や資料スペースとトイレを併設することを検討すべきである)。
- ・人の流れだけでなく、地元にお金が落ち、雇用が生まれ、地域の活力の源になるような観光の仕組みづくり(複合産業としての観光づくり)。
- ・他のボーダーツーリズム(国境観光)との連携(広域観光連携)の推進→単独ではインパクトやPR力が不足する地域がボーダーツーリズム(国境観光)という統一的なイメージで連携する。
- ・「人の流れ」から「モノの流れ」へ拡大・発展させ、経済交流の大きな流れをつくるための中長期的な戦略が必要→具体的には、フェリーを活用して、北海道とサハリンとの人の流れをつくり、稚内を経由して全道・全国の物産をサハリンおよび極東ロシアへ→そのためには交流の基礎インフラであるフェリーの維持・存続は重要課題。









参考文献・資料

1. 花松泰倫『対馬・釜山国境観光モニター調査報告（2015年3月14-16日実施）
【<http://src-hokudai-ac.jp/jibsn/report/150605.pdf>】参照。